

町医者だより

平成22年04月号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーTESCO2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

鼻炎と喘息

最初は鼻水だけだったのが咳に変わってしまいました、と小さなお子様をお連れになるお母様が良くいらっしゃいます。今月は鼻水（鼻炎）と喘息の深い（不快？）関係についてです。

喘息の患者さんで高い合併率を示すアレルギー性鼻炎

以前はアレルギー性鼻炎と喘息は別の病気として扱われてきましたが、近年アレルギー性鼻炎と喘息との同時性が指摘され、両者は連続性のあるひとつの気道の病気とする考えが主流になってきています。ARIA (Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma)というアレルギー性鼻炎の世界標準となる指南書の2008年改訂版にもそのことが強調されています。アレルギー性鼻炎を有する患者さんで喘息を合併する患者さんは20～50%といわれていますが、喘息の患者さんがアレルギー性鼻炎を有する頻度は80%といわれています。つまり喘息と診断されている患者さんの多くの方で鼻水や鼻づまりなどの鼻症状が出やすいことを意味しています。

アレルギー性鼻炎は喘息の発症要因であり悪化要因です

喘息患者さんはアレルギー性鼻炎の合併率が高いだけではありません。アレルギー性鼻炎があると喘息になる危険性が高くなります。主に10歳代から40歳代の方を対象に解析した論文ではアレルギー性鼻炎があると喘息を発症するリスクが鼻炎のない方の5倍と報告しています (Allergy 2010)。またアレルギー性鼻炎がある7歳以下のお子さんの41.2%で喘息を発症し、鼻炎がない場合の喘息発症率(12.9%)と比較して3倍以上高くなります (J Allergy Clin Immunol, 2007)。つまり鼻炎が喘息の発症に関係があるのです。関係はそれだけではありません。先のARIAでも言及していますがアレルギー性鼻炎の悪化が喘息のコントロールを悪くします。

アレルギー性鼻炎が気道過敏をひきおこす

ARIA2008年改訂版およびAllergy誌(2010)で指摘されていますが、どうやらアレルギー性鼻炎そのものが気道過敏を引き起こしているようです。気道過敏は咳や痰が出やすい状態で、喘息の主要な病態の一つですが、冷たい空気を吸ったり、運動すると咳が出ます。冒頭で述べた鼻水が咳に変わったお子さんはまさに気道過敏が出現しているといえます。

ここ数年 後鼻漏(こうびろう)が咳の原因だと説明していません

呼吸器内科を受診する動機として一番多いのが咳です。咳の論文といたら必ず名前が出てくるアービン先生という著名な先生がおられますが、喘息、後鼻漏、逆流性食道炎が咳の三大原因だと説明しています。後鼻漏は簡単に言うと鼻水がのどの方に回っている状態を表しています。私自身、開業する以前は咳の原因として患者さんに説明する時に良くこの言葉を用いていたのですが、最近はずっと使いません。なぜかという後鼻漏のある咳の患者さんにきちんと呼吸機能検査を行ってみると喘息の変化を伴っていることが多いことに気がついたからです。鼻水や鼻づまりがあって咳がでる方は、やはり喘息があるのではないかとの認識を持って診察をさせていただいている今日この頃です。